

15分を大切に

河島信樹

私がお一緒したのは、丁度大河さんが宮本研を足場に世界へ羽ばたいていかれる時で 大学院の学生としての私とは少し距離があり、実際の指導やアドバイスを直接頂いた記憶は、大変少ないのですが、一つだけ、博士課程でいい研究テーマがなく中途退学して就職しようかと迷っていたのを救って頂いたのが大河さんでした。

太陽からくるプラズマ流 太陽風 これと地球の双極子磁場がつくる 地球磁気圏 理論的に予測されていて「これを実験室で実証する実験をやると面白いよ」というアドバイスでした。スプートニク直後の宇宙開発黎明期での観測結果と呼応して、当時のこの分野の中心的なテーマでしたが、これを先輩の石塚浩さんのプラズマガンを使わせて頂いて、短期間に私の学位論文に仕上げることができました。この仕事はその後の私の研究活動に大きな道を開いてくれ、30年近く宇宙開発に携わるようになりました。

当時は、大学院の学生が外国の国際会議などの場で最新の研究の動向などを知る機会は無に近かったので、すでにアメリカ ヨーロッパを舞台に活躍されていた大河さんが伝えてくれる学会誌などで得られる前の情報は、これだけでなく、研究室全体にとっても貴重なものでした。

もう一つ、研究室のいろいろな話のなかで、何を質問したのかは覚えていないのですが、私に強烈に印象に残っている言葉が、タイトルの

15分を大切にすること

です。

結果的には、ほとんどお言葉通りの実行はできていないのですが、私自身もうあと限られた時間しか活動できない年齢になってきて、この言葉の重みが若いときよりはるかに増えています。平均余命は10年あまり まだ30万分の1 というと余裕があるようですが、現実には、一日 一週間 一月が矢のように過ぎていきます。

15分単位でと たまっている仕事をやり出すと一つの仕事ですぐに一時間 半日と過ぎていき、なかなかきばきと仕事を片付けることができないのが現状です。しかし、本文を書くのを機会に 再度 15分単位できばきと仕事ができるように努力を重ねて こんど大河さんにお会いするときには 「いいお言葉を頂いて有難うございました」と云えればと思っています。

